

発達障害とは、子どもが成長していくときになんらかの理由で心身の機能の発達が困難な状態をいいます。

今回は発達障害の中でも自閉症スペクトラム障害についてお話します。

自閉症スペクトラム障害の特徴

①人とのかかわりや社会性の障害

- ◆ 人の立場で物事を考えることがむずかしい
- ◆ ルールに沿った行動がむずかしい
- ◆ 友達との交流がむずかしい

②コミュニケーションの障害

- ◆ 言葉の遅れがある
- ◆ 場になじめない、独特に調和しないところがある
- ◆ 自分の興味を一方向的に話す
- ◆ 質問に全く関係のないことを答えることがある

③想像性の障害

- ◆ 特定の物事に興味が強い
- ◆ 新しいもの、場面になると動揺する傾向がある
- ◆ 生活面で強い決まり事がある
- ◆ 同じ質問を何度も繰り返すことがある

他に、感覚鈍麻、感覚過敏などをもつ場合もあります。



原因

はっきりした原因は分かっていませんが、基本的には生まれつきの障害であることがわかってきました。子育て、愛情の問題ではありません。脳の多様な機能を同時に総合的に働かせることがうまくいかないのではないかなど言われていますが、まだ研究段階でもあります。

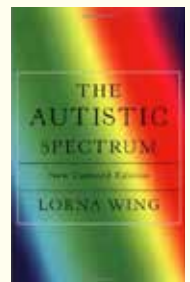
診断

どこまで個性なのか、どこから障害なのかがむずかしいところです。自閉症スペクトラム障害の3つの特徴によって社会生活に支障を来している場合に診断されます。社会生活とは保育園、幼稚園、学校、家などの日常生活であり、そこで本人や周囲の人が自閉症スペクトラム障害の3つの特徴のために困っている場合に自閉症スペクトラム障害と診断されます。診断については発達の専門家に相談してください。

スペクトラムとは

健常者から重い自閉症のお子さんまでの間に明快な境界があるわけではありません。その境界が曖昧で光のスペクトラムのように多様に見えながらも連続しているため「自閉症スペクトラム」という言い方が広まってきました。虹の色がどこから別の色に変化しているのかははっきり区別がつかないように、障害と個性の境界線はむずかしいのです。

しかし、先に述べました自閉症スペクトラム障害にみられる3つの特徴は生涯つきあっていく必要があります。3つの特徴があっても、不適応を起こすことなく自分に自信をもって生きていくことが目標となります。



一人で悩まないでください

保育園、幼稚園、学校、医療機関や役所などの相談できる人に、まずは困っていること悩んでいることを相談してみてください。相談をすることで先行きが暗くなるのではなく、次のステップに導いてくれる人がいるはずです。

子育ては一人ではできません。子どもたち、ご家族の健康をみんなで守っていききたいものです。